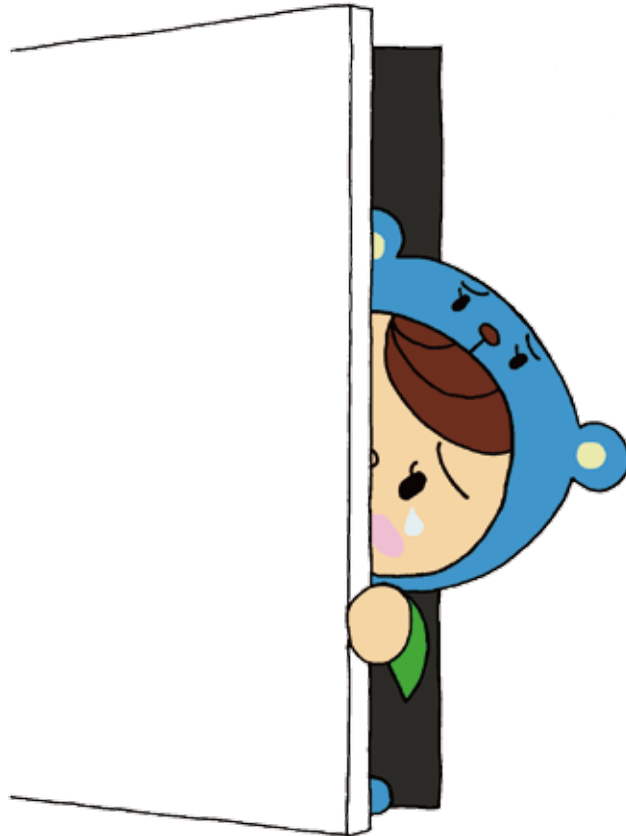





よめばやさしくなるしゃきょうのこうほうし

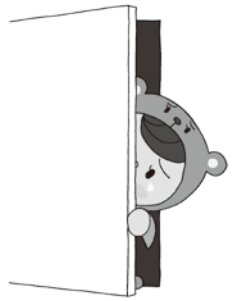
福祉くまの



特集 ひきこもりを考える

NO.82 平成31年4月26日発行

 熊野市社会福祉協議会の事業には、赤い羽根共同募金配分金を活用させていただいております。



ひきこもりを考える

今年度の「福祉くまの特集」は近年、社会問題になっているあらゆるテーマを毎回ピックアップし、熊野市社協のイメージキャラクター「くまちゃん」が皆さんのもとに様々な情報をお届けします。



わが国の現状

世の中には何らかの理由で社会とのつながりを持たず、自宅のみでの生活を余儀なくされている方がいます。現在、日本全国には100万人近くの方が「ひきこもり」状態として認知され、大きな社会問題となっています。

厚生労働省によれば、様々な要因の結果として社会的参加を回避（拒否）し、家庭にとどまり続けている状態で、その中には自室や自宅から全く出ない人に加えて、「趣味の用事のみ外出する」「近所のコンビニには出かける」なども含めて、半年以上続く場合をひきこもりとしています。

また先に述べた100万人の内、40歳〜64歳が約61万人に上るという調査結果も公表されています。これまでは若者の問題とされてきましたが、その対応も年齢の制限を設け、幅広く対応するよう変わってきています。



至る過程



ひきこもりに至るまでの行動の特徴としては、「家族との会話を一切しない」「あらゆる物事に

対して諦めている」「学校や仕事などを休みがちになる」「暴力的になる」などがあり、一見すると本人の性格や甘え、育った環境などの延長上にあると考えられがちですが、それらは決定的なものではなく、単純にそれだけが原因でひき

こもりが生じるわけではありません。

人は成長に伴い、その段階で何らかの能力を求められます。コミュニケーション、勉強、仕事など、様々なプレッシャーの中でもがきながら前に進みます。しかし中には、自分の許容を超える障壁、挫折に直面したとき、周りとの疎通を拒絶することで自分自身が守られると信じ、行動する人も出てきます。恐らくその人にとっ

てはその選択肢しか浮かばなかったのであろうと察します。そして、自分の存在意義を疑うようになったり、社会の中で自分の居場所を見つけれなくなり、自分だけの空間の中でしか安心感を得られなくなります。きっかけとして多いのは、いじめや人間関係がうまくいかないこと、成績の低下や受験、就職活動の失敗などの様々な挫折経験です。きっかけがよくわからない場合もあります。



身近な社会資源

恐らく多くの当事者、家族がその現状に苦しみ、できることなら今の環境から脱したいと望んでいるでしょう。ひきこもりによる長期の孤立は、心身にさまざまな悪い影響をもたらし、更に状況が悪化します。悪化するれば出口がさらに遠のくことになり、いわゆる負のスパイラル（悪循環）に陥ります。そのスパイラルをできるだけ早期に止めるためには、当事者もしくは、

当事者の家族が誰かに助けを求めることが重要です。しかし、いったい誰に相談すればいいのか、秘密は守られるのか、そもそもこの状況が理解できないなど、当事者や家族にとっては声を上げる、行動することすら難しいこともあります。しかし、行政機関や医療や福祉などの専門機関よりもいち早く異変に気付くことができるのは、やはり家族であり、近隣に住む人です。最終的には行政や専門機関等が深く関わり、解決に向けて取り組むのであっても、そこに至るまでにはまず、家族、近隣の人々が気付き、何らかのアクションを起こすということが、解決に向けての鍵となります。また、当事者にとっても長く、また、一番身近で関わることになる存在であることから、家族や近隣の人々は、最も重要な社会資源であるといえるでしょう。



身近な相談機関

ひきこもりの問題が全国各地に存在するように、それを支援する専門的な社会資源も全国各地に存在します。私たちの住む三重県では、平成25年4月に三重県こころの健康センター内に「ひきこもり地域支援センター」が開設されました。ひきこもり地域支援センターでは、ひきこもり専門相談（電話・面接）以外に、ひきこもり支援者スキルアップ研修会やひきこもり講演会、ひきこもり「家族教室」「家族のつどい」な

ど、当事者だけでなく、家族や支援者に対する支援も行っています。人に迷惑を掛けたくない、誰かに相談するのは恥ずかしいなど、助けを求めることに躊躇するのは多くの方の当然の感情です。しかし、誰にも相談しないまま時間だけが経ち、家族自身もまた社会から孤立してしまふということになれば、さらに問題が大きくなり、解決が遠のいてしまいます。勇気を出して一歩踏み出してみる、その行動が解決への第一歩なのです。

◆ひきこもり地域支援センター

相談時間 毎週水曜日13時～16時
（祝日・年末年始を除く）

専用電話 059・253・7826



なんでも相談

この福祉くまのを発行している熊野市社会福祉協議会は、「みんなのくらしにいつしよけんめい」を合言葉に、だれもが安心して生活できる地域づくりを推進している民間組織です。だから、相談の内容は、原則「なんでも」です。それは、社会福祉協議会という名称通り、様々な機関や、住民の皆様とともに力を合わせて解決することを基本とする組織だからです。とはいえ、相談内容を正確かつ客観的に把握し、正しく解決へ活動を進めるため、そして何より安

心して相談していただけるよう、相談援助技術の研鑽に日々励んでいます。また、社会福祉士、精神保健福祉士など、福祉に関する専門的な資格を持ったものも所属しています。今回取り上げた「ひきこもり」に限らず、何か困りごとがあれば、ぜひお気軽にご相談ください。



平成31年度予算(法人全体)

【収入】		単位:千円	【支出】		単位:千円
科目	金額		科目	金額	
会費・寄附金	1,176		人件費	314,678	
補助金収入	32,000		事業費支出	26,711	
受託金収入	32,549		事務費支出	53,768	
貸付事業収入	3,637		貸付事業支出	3,637	
事業収入	8,801		分担金支出	25	
負担金収入	8,812		助成金支出	9,829	
介護保険・障害福祉サービス収入	330,032		負担金支出	6,315	
借入金収入	2,000		借入金支出	2,000	
その他の収入	147		その他の支出	2,191	
合計	419,154		合計	419,154	

みんな
いっしょに
大きくな～れ!

いな



ボランティアセンター
イメージキャラクター
いな

熊野市ボランティアセンター
登録ボランティア数
団体：35 個人：25名
合計：1,736名
平成31年3月31日現在

がんばりました

ちびっ子ボランティア大活躍!

3/23(土)、社協ふれあいミニフェスタin遊木において、平成30年度最後の活動を行いました。模擬店や募金ブースでのお手伝いや、小さい“くましゃん”になって会場を周遊するなど、活動に参加した一人一人が一生懸命頑張りました。小さいくましゃんは、背丈のバランスやしぐさ等、とっても可愛いものでした(^^)



第14回社協ふれあいフェスタ ボランティア募集!

よろしく
お願いします

社協ふれあいフェスタを開催します!
フェスタでお手伝い頂けるボランティアを募集しますので、
皆様のご協力をお待ちしています!

日時：令和元年6月16日(日) 10:00～13:30
場所：熊野市保健福祉センター
内容：受付などの運営補助
応募：熊野市ボランティアセンターまで申込下さい。

2019年度 ちびっ子ボランティア募集!

子ども期からの福祉体験は、協調性やボランティア精神を育む上でとても重要です。
熊野市ボランティアセンターでは「ちびっ子ボランティアグループ」を結成して、
子どもたちに福祉の魅力発信をおこなっています。
市内各小学校を通じて、ご案内しますので是非参加してみてください。

- 活動回数：5～6回/年
- 活動内容：イベント模擬店の運営や募金活動など



ボランティアに大切なこと

「ボランティア」と聞くと、災害支援などの大がかりな活動を連想しませんか。もちろん必要な活動ですが、それだけがボランティアではありません。活動の大小ではなく、ボランティアは「無理なく、できることを長く続ける」ことが大切です。地域の見守り活動やちょっとした手助け、どれも大切な活動です。

あなたは、困っている人を見かけると声をかけたくありませんか? そんな気持ちを大切に、できることから始めましょう(^^)

熊野市ボランティアセンター
(熊野市社会福祉協議会内)

住所：熊野市井戸町1150番地
電話：0597-89-5000

担当：西 里美
FAX：0597-89-3068

3/6,13 次世代型 ホームヘルパー養成講座 (保健福祉センター)

高齢者等の生活のお手伝いをする次世代型ホームヘルパーを養成する講座を開催しました。13名の方が受講され、内12名に修了証を交付。

今後の活躍が期待されます。



3/12 福祉委員研修会 (保健福祉センター)

52名が参加。ひきこもりの支援をテーマに、地域として、福祉委員として、今後の担う役割について考えました。



3/23 第12回社協ふれあいミニフェスタin遊木

有馬中学校吹奏楽部の演奏や、紀州舞踊隊の迫力あるソーラン踊り、また遊木で獲れた魚を使ったイベントなど、大変賑わいを見せた一日でした。

(遊木漁民センター前)



4/12 災害時に水を 使わないトイレ講座 (保健福祉センター)

テレビでおなじみ、「チーム・トイレの自由」代表の長谷川高土さんをお招きして、災害時に水を使わないトイレ講座を開催しました。体験型の講座で、役立ち度は★★★★★!



2/28, 満百歳記念事業 3/12

笑顔がたえない記念事業でした。これからもお元氣にお過ごしてください。

2/28九鬼美佐代さん

3/12尾中晴子さん



第14回 社協ふれあいフェスタ

模擬店や色々なイベント等盛りだくさんです。
皆さんでぜひお越し下さい!

R1

6/16

10:00
スタート!



こんなことやりました



やります

おまかせ
くだやい
無料法律相談所

◇開設日 5月21日(火)
6月18日(火)

◇相談員 片山 眞洋 弁護士

◇会場 熊野市保健福祉センター
1階相談室

◇時間 13時から

◇相談内容 民事全般(相続、離婚、雇用、他)

※開催日前日の15時までにご予約ください。

※相談は一人15分程度で予約順です。

担当 地域福祉係 西

リサイクル情報

家庭で使わなくなった介護用品や乳幼児用品、また、「譲って欲しい!」といった品物を登録し、地域でリサイクルする制度です。お互いに譲り合う当制度を是非ご活用下さい。

当制度に関する情報は、熊野市保健福祉センター玄関にある掲示板または熊野市社会福祉協議会ホームページ(熊野市社協で検索 リサイクルのページ)でご覧ください。



担当 地域福祉係 榎本

三重県社協がらみのおてがみ

①シニア生き生きチャレンジ教室
現役シニアの高い就業意欲と経験、技能を活かし、地域社会の支え手として介護現場への就労やボランティア活動につながるための研修を実施します。

◇対象 県内居住の概ね60歳以上で、地域でのボランティア活動や介護職場で働く意欲のある方。

◇日時 7月4日(木)、10日(水)、11日(木)、17日(水)

10時~16時(7日12時まで)

◇会場 尾鷲市福祉保健センター4F

◇受講費 無料

◇申し込み、問い合わせ

三重県社会福祉協議会

福祉研修人材部 福祉人材課

☎059・227・5160

②介護職員初任者研修

福祉・介護職場の人材不足を改善するため、働いていない方を対象に実施します。

◇応募要件 県内に住民登録し就労していない概ね70歳未満の方で研修終了後、福祉・介護職場で働ける方

◇定員 39名

◇募集期間 5月8日(水)~

6月10日(月)※必修

◇研修期間

6月19日(水)~8月16日(金)

◇会場 三重県社会福祉協議会

受講料 無料

◇申し込み、問い合わせ

三重県社会福祉協議会

福祉研修人材部 福祉人材課

介護職員初任者研修担当

☎059・227・5160

くましゃんに挑戦!

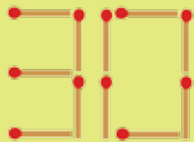
マッチ棒クイズ



こんにちは! くましゃんだよ! 今号からは気分を変えて「マッチ棒クイズ」! 暗号クイズと同じようにがんばって挑戦してね!

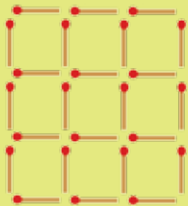
もんだい
1

1本足して
都道府県名に!



もんだい
2

8本取りのぞいて、
正方形をふたつに!



正解者3名にステキなプレゼント!

ハガキは、〒519-4324熊野市井戸町1150番地 熊野市社会福祉協議会 福祉くまの係へ。
メールは、ホームページの「おてがみ」から。(どちらも5月30日必着で!)



前号の「暗号の謎を解け!」の正解者は、
尾白美代子さん
野尻ヨシ子さん
山本一華さん でした。
おめでとうございます。

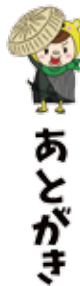
◆前号のこたえ
問1⇒泣(えーん)
問2⇒F(ドレミファソラシド)



ケータイで



平成が終わり、新しい元号の「令和」が入タートします。昭和から平成になった時からもう30年経つんですね。月日の経つのは本当に早いものです。年齢を重ねると時間の経過が早く感じるのは、毎日の出来事に刺激を感じなくなるからだとか。元号も新しくなるといつか、フレッシュな気持ちで毎日を刺激的に過ごしましょう。(あきひと)



あとがき

熊野市の人口と高齢化率

世帯数 8,832世帯
人口 16,799人
(男7,700人/女9,099人)
65歳以上 7,250人
(男2,977人/女4,273人)
熊野市の高齢化率 43.16%
(平成31年4月1日現在)

皆様ご協力お願い致します。
これからの時代は高齢者が高齢者を支える時代です。無理のないように活動したいと思います。



会長 辻保さん

二木島地区社会福祉協議会

新地区社協会長



福祉くまの NO.82
2019年4月26日発行

編集 社会福祉法人熊野市社会福祉協議会 〒519-4324 熊野市井戸町 1150
TEL 0597-89-5000 / FAX 0597-89-3068 /
E-mail kumano@k-shakyo.com / URL http://www.k-shakyo.com/